

〈認定医更新における単位取得が認定された学会・研究会の活動状況〉

(1) 日本精神神経学会

事務局：〒113-0033
 東京都文京区本郷2-38-4
 本郷弓町ビル5F
 Tel : 03-3814-2991 Fax : 03-3814-2992
 e-mail : info@jspn.or.jp
 URL : <https://www.jspn.or.jp/>
 代表者：〈理事長〉武田雅俊
 会員数：約17,136名
 機関紙：精神神経学雑誌（月刊）
 PCN誌（年12回）

【平成26年度活動状況】

第110回日本精神神経学会学術総会
 期 間：平成26年6月26日（木）～28日（土）
 テーマ：世界を変える精神医学—地域連携か
 らはじまる国際化—
 場 所：パシフィコ横浜

(2) 日本思春期青年期精神医学会

事務局：〒160-8582
 東京都新宿区信濃町35
 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室
 内
 Tel : 03-5363-3829 Fax : 03-5379-0187
 代表者：〈会長〉皆川邦直
 会員数：約380名
 機関紙：思春期青年期精神医学（年2回発行）

【平成26年度活動状況】

第27回大会は、2014年7月4日（土）、5日（日）平野直己氏（北海道教育大学）を大会会長として、札幌市、北海道大学学術交流会館にて開催された。

初めての試みとして、前夜祭としてプレコンGRESS・レクチャーが開催された。『小倉清先生に聞く—余は如何にして子どもの精神科医になりし乎—』という題で、伊藤洋一氏（勤医協札幌病院）が小倉氏の武勇伝を含めた話を聞く

形で行われた。

シンポジウムは、「現代の若者像と心理治療」というテーマで、中康氏（関東中央病院）が摂食障害の入院治療について、渡部京太氏（国府台病院児童精神科）が不登校（ひきこもり）の入院治療について、三上謙一氏（北海道大学保健管理センター）が愛着理論からみた大学生像について発表された。

ワークショップは、「さまざまな自立のかたち」と題して、大島正浩氏（メンタルクリニック・ダダ）のほか、札幌市の若者支援センターの松田考氏、NPO法人北海道ダルクの森亨氏を招き、学際的な討論がなされた。

教育講演は、馬場禮子氏（中野臨床心理研究室）が『思春期青年期の母娘関係』のテーマで話された。

また、学術講演は、当学会の新会長皆川邦直氏（法政大学）が、『思春期青年期のサイコロセラピーから学ぶ』というテーマで講演された。

第28回大会は、2015年7月11、12日横浜市開港会館で、生地新氏（北里大学）を大会会長として開催される予定である。

(3) 日本乳幼児医学・心理学会

事務局：日本乳幼児医学・心理学会事務局
 住 所：〒603-8148
 京都市北区小山西花池町1-8
 （株）土倉事務所内
 Tel : 075-451-4844 Fax : 075-441-0136
 e-mail : jde07707@nifty.com
 URL : <http://www.jampsi.org/>
 代表者：〈理事長〉小林隆児
 事務局長：野邑健二
 会員数：一般276名 学生35名
 【平成26年度活動状況】
 〈第24回大会〉
 開催日時：2014（平成26）年11月15日（土）
 場 所：滋賀県立大学 A7棟101講義室

会長：竹下秀子（滋賀県立大学人間文化学部）
 テーマ：地域の国際化を生きる子どもの発達と
 子育て支援—多文化包摂の社会に向け
 て

【プログラム内容】

会長講演「種、社会文化を越えて育つ子どもの
 発達」竹下秀子（滋賀県立大学人間文
 化学部）

特別講演「多文化児童の言語と社会性の発達」
 松井智子（東京学芸大学国際教育セン
 ター）

シンポジウム「未来に繋ごう多文化子育て」

- 趣旨説明：竹下秀子（滋賀県立大学人間文化
 学部）
- 話題提供：「多文化保健医療の実践と研究か
 ら」畑下博世（三重大学大学院医
 学研究科）
 「複数言語環境で育つ子どもの日
 本語習得と保育—滋賀県外国人集
 住地域認可保育所在籍児の実情」
 鈴木祥子（滋賀県立大学大学院人
 間文化研究科）
 「鈴鹿市の日本語教育の取組」中
 川智子（三重県鈴鹿市教育委員会）
- 指定討論：金子龍太郎（龍谷大学社会学部
 松井智子（東京学芸大学国際教育
 センター）

会誌「日本乳幼児医学・心理学研究」（年 2
 回）の発行

第23巻1号（6月）：第23回大会特集

会長講演「インターサブジェクティブな心
 の発達：二者関係から多者関係へ」中野
 茂

特別講演「家族関係と子どもの発達：人類
 学的アプローチ」高田 明

「私の児童精神医学と乳幼児研究」本城秀
 次

シンポジウム：乳幼児の基礎研究から臨床
 へ、臨床から基礎研究へ

「自閉症ハイリスク乳児に関する臨床研
 究」氏家 武

「乳幼児の保育現場におけるトランスレ
 ショナル・リサーチ」秦野悦子

「シンポジウムを終えて」近藤清美

第23巻2号（12月）：特集「母子精神保健と
 世代間伝達」

「特別企画「母子精神保健と世代間伝達」
 にあたって」小林隆児

「母子精神保健と世代間伝達—総説—」山
 下 洋ら

「周産期の女性と世代間伝達」吉田敬子

「虐待の世代間伝達と家族看護—両親から
 の複合虐待をうけた母親への育児支援—」
 廣瀬たい子ら

「周産期医療と世代間伝達—臨床心理士の
 立場から—」永田雅子

「発達障害と世代間伝達」小林隆児

（4）日本小児精神神経学会

事務局：一般社団法人日本小児精神神経学会事
 務局

住 所：〒102-0075

東京都千代田区三番町7-1

朝日三番町プラザ408号

株式会社アークメディア内

Tel : 03-6272-6516 Fax : 03-5210-0874

e-mail : jsppn@arcmedium.co.jp

URL : <http://www.jsppn.jp/>

代表者：宮本信也理事長

会員数：1,328人（平成27年4月2日現在）

【平成26年度活動状況】

- 日本小児精神神経学会は、昭和35年（1960
 年）に小児精神神経学会として発足し、
 平成4年（1992年）に学会となり、現在の日
 本小児精神神経学会となりました。設立から
 50年以上が経過し、小児の発達や心の問題に
 関する学会としては、わが国でも最も長い歴
 史を持つ学会の一つです。

現在、日本小児精神神経学会では、発達障害
 と愛着障害が大きなテーマとして議論され
 ることが多くなっています。しかしながら、も
 ちろん、本学会が対象とするのはこの2つに

限定されるものではありません。小児精神神経学は、字義通りにとらえるならば、小児の精神と神経の問題を広く対象とするといえます。しかし、日本小児科学会の分科会としての本学会の立場は、「精神」の問題として主な対象とするのは発達と行動の問題であり、「神経」の問題として主な対象とするのは神経学的異常や神経疾患に伴う発達や行動の問題である、といえるでしょう。

平成26年度の活動内容について報告します。

- 学術集会の開催：例年どおり2回開催しました。6月には東京都で金生由紀子会長、大会テーマ「子どものくせとこだわり」、11月には秋田県で渡部泰弘会長、大会テーマ「子どもを支える精神療法・心理療法」で行い何れも盛況でした。学術集会時には、学会セミナーを開催しており、内容はそれぞれ、神山潤先生「ねむりのはなし—快を義務に変えた哀しい社会—」と、海津亜希子先生「通常の学級における多層指導モデルMIM（ミム）～つまずきのある読みを流暢な読みへ～」でした。
- 機関誌の発行：例年どおり学会誌「小児の精神と神経」を年4回発行しました。
- 学会認定医制度：日本小児精神神経学会の会員医師を対象に、認定医制度を行っています。審査は年2回行われ、現在の認定医数は289名です。

(5) 日本小児神経学会

事務局住所：〒162-0055

東京都新宿区余丁町8-16

ネオメディアピア4階

Tel : 03-3351-4125 Fax : 03-3351-4067

e-mail : childneuro@nifty.com

URL : <http://child-neuro-jp.org>

代表者：高橋孝雄理事長

慶應義塾大学医学部小児科教授

会員数：約3,800名

【平成26年度活動状況】

2014年5/29-31 第56回日本小児神経学会学

術集会を浜松アクロシティコンgresセンター（浜松）で開催、参加者総数は2,076名。

2014年10/5 第19回専門医試験を都市センターホテル（東京）で実施、合格者44名、合格率89.8%

2014年11/1-3 第44回日本小児神経学セミナーを湘南国際村センター（神奈川県葉山町）で開催、受講者数は125名。

2014年11/15 第11回「医療的ケア」研修セミナーをボルファートとやま（富山）で開催、受講者数は162名。

2015年3/1 第9回プライマリケア医（小児科医、総合診療医）のための子どもの心の診療セミナーを昭和大学（東京）で開催、受講者数は147名。

和文学会誌「脳と発達」第46巻第1～6号（診断と治療社）、英文学会誌Brain and Development Volume 36 Issue 1～10（エルゼビア社）、小児神経学の進歩・第44集（診断と治療社）を発行した。

(6) 日本小児心身医学会

事務局：〒606-8305

京都市左京区吉田河原町14

近畿地方発明センタービル知人社内

Tel : 075-771-1373 Fax : 075-771-1510

e-mail : shonisinsin@chijin.co.jp

代表者：村上佳津美

会員数：1,198名

【平成26年度活動状況】

日本小児心身医学会は、昭和58年に日本小児心身医学研究会と称して第1回の学術集会を開催し、第7回に日本小児心身医学会と名称変更し今日に至ります。近年、子どもの心の問題の増加が指摘される中で、会員が心身医学を理解し、子どもの心身症に適切に対応できるよう、教育的なプログラムを充実させながら発展して参りました。

平成26年度は、「再考—子どもの心とからだ—職種の垣根をこえて」をテーマに第32回学術集会が大阪で開催され、医療だけでなく教育

や福祉など様々な領域の方と交流し活発な討論が行われました。また、学術集会では研修委員会によるイブニングセミナーも併せて開催され、「不登校診療の基本と実際」についてロールプレイを含めた実践的な研修を行いました。さらに地方会活動も活発に行われており、北海道・東北・関東甲信越・東海北陸・関西・中国四国・九州沖縄の7つの地域で、地方会を開催しました。

本学会の特徴として、小児の心身医学の普及・教育と共に、アウトカム研究をはじめとする研究活動があります。今年度は、研究委員会・摂食障害ワーキンググループが申請した厚生労働科学研究課題「小児摂食障害におけるアウトカム尺度の開発に関する研究」が採択されました。また、各ワーキンググループが作成しているガイドラインも、平成27年度の改訂版発行を目指して検討を重ねました。

会員の方への情報提供として、学会誌は年2回から4回に発行が増加し、原著論文はもとより臨床に役立つ実践的な内容を掲載しています。また、ホームページには、研修用のビデオプログラムをアップし、会員の方が自己学習できるような支援を行っています。認定医制度についても、第5回の認定医試験を開催し11名が認定医となりました。

今後も、心と身体をつなぐ診療を実践できるような活動して参りますので、皆様のご支援ご参加をよろしくお願いいたします。

(7) 日本青年期精神療学会

事務局：横浜国立大学教育人間科学部臨床心理学講座内→東海大学医学部専門診療学系精神科学内

住 所：〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-2→〒259-1193 神奈川県伊勢原市下糟屋143

Tel : 045-339-3477→0463-93-1121

Fax : 045-339-3477→0463-94-5532

代表者：理事長 馬場謙一→松本英夫

事務局長：鈴木朋子→玉井康之

会員数：174名（2015年6月30日現在）

【平成26年度活動状況】

第32回日本青年期精神療学会総会が、生野照子会長の下、平成26年11月30日、梅田スカイビル タワーウエスト22階（大阪市）にて行われた。テーマは「今、求められる精神療法」で、特別講演として、柳美里氏（作家）「体験から見た今後の精神療法に期待すること」、大野裕氏（独立行政法人国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センター センター長）「認知行動療法の実際と教育場面での活用」、ランチオンセミナーとして池見陽氏（関西大学臨床心理専門職 大学院）「フォーカシング指向心理療法の視点」が行われたほか、一般演題も発表された。また同日、理事会も開催された。学会誌も1回発行された。

備考：2015年4月1日より、理事長及び事務局、事務局長が変更になっています。

(8) 日本摂食障害学会

事務局：株式会社メッド内 担当：白神昌子

住 所：〒701-0114

岡山県倉敷市松島1075-3

Tel : 086-463-5344 Fax : 086-463-5345

e-mail : jimuj@jsed.org

URL : <http://www.jsed.org/index.html>

代表者：〈理事長〉石川俊男

（独立行政法人 国立国際医療研究センター国府台病院 心療内科特任診療部長）

世話人：なし

会員数：440名

【平成26年度の活動状況】

今年度は、井上幸紀会長（大阪市立大学精神神経科）のもとで、第18回日本摂食障害学会学術総会集会在平成26年9月13日～14日に大阪国際会議場（大阪）で開催された。今回は第14回日本認知療法学会との合同学会ということで、いやがうえにも盛り上がり、例年より多くの参加者を得て盛会裏に終えた。

本会で切池理事長の任期が終了し、国立国際

医療研究センター国府台病院心療内科特任診療部長石川俊男が理事会において新理事長に新任された。これに並行して新たな役員の選任が行われ、事務局も岡山県倉敷市にある(株)メッドに委託して移転、新しい体制が確立して学会運営は新たな方向へ向かうことになった。初代中井義勝理事長、二代目切池信夫理事長が築いてこられた本学会を、石川はじめ新たな役員によってさらに活発で質の高い、それでいて和気あいあいとした特徴ある学会にしていきたいものである。

また、8月にニュースレター(No.16)が發刊された。

さらに今年は摂食障害について画期的な一年となった。子どもが長年望んできて、多くの国民の署名を集めて請願を行ってきた「摂食障害センター」設立へ向けて大きな一歩を踏み出したのである。それは、厚労省が「摂食障害治療支援センター運営事業」構想を発表し、事業そのものがスタートした年になった。基幹センター(国立精神・神経研究センター精神保健研究所心身医学研究部)に地域の治療支援センター病院を5か所程度配置する形で、地方自治体からの応募を待って体制を形造っていく予定である。既に、ある地方では手を上げる県が出始めており順調なスタートである。また、同時並行的に動き始めた平成27年度厚労省科研費補助金「摂食障害の診療体制整備に対する研究」研究班(安藤哲也主任研究者)では、多くの本学会員が分担研究者等として参加しており、摂食障害の診療体制の整備に本格的に関わるべく研究(3年間の予定)がスタートした。このように本学会にとっては記念すべき年度となったことをご報告する。

(9) 日本発達障害学会

事務局住所：〒114-0015

東京都北区中里1-9-10

パレドール六義園北402号室

Tel/Fax：03-5814-8022

e-mail：office@jasdd.org

URL：http://www.jasdd.org

代表者：理事長 菅野 敦

世話人：事務局長 霜田浩信

会員数：2,153名

【平成26年度活動状況】

日本発達障害学会は、発達障害者の教育・医療・福祉・労働などの多領域・複合領域による学術研究団体である。本学会は2015年に創立50周年を迎える。本会は国際知的・発達障害学会(IASSIDD)の日本支部でもある。知的障害と発達障害を同じ研究分野や支援領域として扱っていく世界的潮流の中で、本学会においても知的・発達障害者への総合的・包括的な研究を支援している。近年の動向として「障害者総合福祉法」「障害者虐待防止法」「障害者権利条約(合理的配慮)」「DSM-5」による情勢変化やフォローが検討されており、最新の支援研究を本学会では推進している。

また、我が国における発達障害者への支援ニーズの今日的な高まりを受けて、本学会では医療従事者・教育者・支援者などの専門性向上やその理解のために、「臨床心理士」「学校心理士」「児童青年精神医学会認定医」「小児神経学会専門医」「特別支援教育士」の資格研修(ポイント)や認定に協力している。

2014-15年にかけての機関誌特集テーマは、「知的障害者の高齢期」「障害者のキャリア発達」「知的障害者の入所施設」「特別支援教育」「発達障害児者における感覚過敏」等である。

2015年度の研究大会は、学会創立50周年記念大会として2015年7月4(土)～5日(日)東京学芸大学(武蔵小金井市)にて開催される予定であり、講演、シンポジウムの他、学会創立50周年記念特別行事(一般公開;参加費無料)として、50周年記念シンポジウム「発達障害児者支援に関する研究と施策のこれから」、子育て支援セミナーを予定している。

また、国際知的・発達障害学会(IASSIDD)の日本支部として、2015年はアメリカ地区大会が5月に開催され、多くの学会員が研究発表を行った。2016年8月にオーストラリアで世界会

議が開催される。本学会の研究は、生物医学的な研究からサービスモデルや疫学、早期介入、職業訓練、老化等の分野が重点化されてきた。

(10) 日本LD学会

事務局：〒108-0074

東京都港区高輪3-24-18

高輪エンパイヤビル8F

Tel : 03-6721-6840 Fax : 03-6721-6841

e-mail : office@jald.or.jp

URL : http://www.jald.or.jp

代表者：理事長 柘植雅義

事務局長：緒方明子

会員数：8,226名

【平成26年度活動状況】

日本LD学会は、LDとその近隣概念をきちんと理解し、そうした状態にある人々への科学的で、適切な発達支援を考えるために、教育、心理、医療等に携わる専門家や教師、そして保護者によって、1992年に設立された学術研究団体です。2009年4月1日に法人化し、「一般社団法人日本LD学会」となりました。

会員数は2015年4月時点で8,226名、名誉会員17名、機関会員・賛助会員合わせて50機関となっています。

2014年11月には「より効果的な支援をめざして一学習支援から問う特別支援教育」をテーマとして、第23回大会（和歌山・大阪）を開催致しました。会員・非会員合わせて、約4,000名の参加者があり、過去最多の参加者を記録する盛況な大会となりました。

また、同年12月に開催された公開シンポジウム（鳥取）では「発達性読み書き障害への気づきと対応について～最近の進歩と今後の展望～」をテーマとし、基調講演・シンポジウムを行いました。会員・非会員合わせて約240名の参加者がありました。

(11) 日本自閉症スペクトラム学会

事務局：〒273-0866

千葉県船橋市夏見台3-15-18

Tel : 047-430-2010 Fax : 047-430-2019

代表者：市川宏伸

会員数：2,700名

【平成26年度活動状況】

学会の年間行事として、資格認定講座、EXPERT研修、研究大会の実施、合わせて『自閉症スペクトラム研究』『会報』を発行している。

今年度の資格認定講座は、東海・北陸支部では6月28日、29日に名古屋ATビルで、北海道支部では7月26日、27日に札幌学院大学で、第23回の講座は8月9日、10日に白百合女子大学で、東北支部では9月20日、21日にホテルルイズ、近畿支部では10月25日、26日に新梅田研修センターで、九州支部では11月8日、9日に長崎大学で、中国支部では11月15日、16日にピュアリティまきびで、第24回の講座は12月13日、14日に白百合女子大学で開催した。

EXPERT研修会は、STANDARD, ADVANCED, EXPERTのうち、EXPERT取得者のための研修会で年1回場所を変えて行っている。平成26年度は、5月10日、11日に実施し、1日目は盛岡（ホテルルイズ）で講座を、2日目はバスを利用して被災地陸前高田市を視察し、災害の大きさに驚き、犠牲者の御冥福をお祈りさせていただいた。

第13回研究大会は8月23日、24日、「障害のある子どもとその家族のメンタルヘルスを支える」を大会テーマとし、立命館大学で実施した。大会会長谷晋二氏により、「障害のある子どもの保護者のメンタルヘルスを支える」と題して講演が行われた。また学会企画シンポジウム、大会企画シンポジウム、自主シンポジウム、ポスター発表があり、意義深い大会となった。

最後に研究のまとめとして、5月に『自閉症スペクトラム研究』第12巻特集号を、11月に『自閉症スペクトラム研究』第12巻1号を、平成27年3月に『自閉症スペクトラム研究』第12巻2号を発刊した。また、「会報」を年3回発行した。

(12) 日本精神病理学会

事務局：大阪大学大学院医学系研究科
精神医学教室内
住 所：〒565-0871
大阪府吹田市山田丘 2 番 2 号 D3
Tel : 06-6879-3056 Fax : 06-6877-7430
e-mail : info@psychopathology.jp
URL : http://www.psychopathology.jp/
代表者：中安信夫（理事長）
事務局長：小笠原將之
会員数：672名（2014年 8 月31日現在）

【平成26年度活動状況】

本学会の呼称は、2004年に一旦「日本精神病理・精神療法学会」に変更されていたが、2013年に再び「日本精神病理学会」に復した。呼称再変更後初めての大会となる本学会第37回大会は、2014年10月4・5日の両日に亘り、内海健大会長（東京藝術大学教授）の下、東京藝術大学（東京都台東区）にて開催された。大会は、会長講演として内海健氏による「百年目の『こゝろ』」、特別講演として木村敏氏による「他者関係における現勢態（actuality）と潜勢態（virtuality）」、教育講演として藤山直樹氏による「接触面に生きる：精神分析と精神科臨床のあいだで」が持たれた他、シンポジウム5席（「脳をとく」「双極性障害の精神病理」「方法論をめぐって」「統合失調症の精神病理」「強度の精神病理」）、一般演題36題と、大変充実した内容であり、いずれも活潑な議論が交わされ、成功裏に閉幕した。

その他、学会誌『臨床精神病理』を3回（第35巻：第1～3号）刊行した。

(13) 日本精神分析学会**(14) 国際学会 IACAPAP, ASCAPAP, ESCAP, AACAP, WAIMH など****(15) 関東子ども精神保健学会****(16) 東京児童青年臨床精神医学会**

事務局：東京都立小児総合医療センター
住 所：〒183-8561
東京都府中市武蔵台2-8-29
Tel : 042-300-5111 Fax : 042-312-8147
代表者：代表世話人 市川宏伸（東京都立小児総合医療センター）
世話人：—50音順—

新井慎一（尾山台すすくクリニック）
大下隆司（東京女子医科大学）
太田昌孝（心の発達研究所）
大久保博美（日本大学駿河台病院）
岡田 謙（くじらホスピタル）
小野和哉（東京慈恵会医科大学）
金生由紀子（東京大学）
栗田 広（全国療育相談センター／東京大学名誉教授）
桑原健太郎（日本医科大学）
齊藤万比古（国立国際医療センター国府台病院）
齊藤卓弥（日本医科大学）
佐藤泰三（順天堂大学精神科客員教授／佐藤メンタルCL）
鈴木俊介（東京都立大塚病院）
立花良之（国立成育医療研究センター）
中村道子（東邦大学）
藤井靖史（帝京大学）
古荘純一（昭和大学）
星加明徳（東京医科大学病院）
松波聖治（青山渋谷メディカルクリニック）
皆川邦直（法政大学現代福祉学部）
宮尾益知（国立成育医療研究センター）
宮島 祐（東京医科大学病院）
森野百合子（都立小児総合医療センター）
米山 明（心身障害児総合医療療育センター）
渡辺久子（慶應義塾大学）

渡部京太（国立国際医療センター国府台病院）
事務局長：田中 哲（東京都立小児総合医療センター）

会計監査：佐藤泰三（順天堂大学精神科客員教授 / 佐藤メンタル CL）

会員数：平成26年度学術講演会参加者50名

【平成26年度活動状況】

製品紹介 12：30～12：45

当番世話人 開会の辞 12：45～12：50

（敬称略）

●一般演題 12：50～14：10（80分）

座長：くじらホスピタル 岡田 謙

どんぐり発達クリニック 宮尾益知

1. 「18歳以上の成人期の注意欠陥 / 多動性障害に「コンサータ[®]錠」が奏功した3症例」

代々木の森診療所 大下隆司

2. 「急性リンパ性白血病入院中の男児への精神医学的介入～自閉症スペクトラム障害の診たてとソーシャルサポート～」

東邦大学 大岡美奈子

3. 「小児がん経験者の心理支援」

日本医科大学 吉野美緒

4. 「22q11.2欠失症候群と自閉症スペクトラムの comorbidity に関する考察～包括的遺伝子プロジェクトにおける児童精神科医の役割～」

東京女子医科大学 河野美帆

●会計報告 14：10～14：15（5分）

会計監査人 佐藤泰三

一休憩 14：15～14：25（10分）

●基調講演 14：25～15：55（90分）

座長：代々木の森診療所 大下隆司

「小児がん患児・家族への心理的かわり」

聖路加国際メディカルセンター聖路加国際病院 小児総合医療センター 医長

こども医療支援室 室長 小澤美和

一休憩 15：55～16：05（10分）

●パネルディスカッション 16：05～17：50

（105分）

（25分発表×3題，指定発言）終了後討論

座長：東京都立小児総合医療センター 森野百合子

国立成育医療研究センター 立花良之

1. 「小児専門病院におけるリエゾンコンサルテーション」

東京都立小児総合医療センター 児童・思春期精神科 医長 菊地祐子

2. 「小児の下部尿路機能と発達障害」

東京女子医科大学 小児泌尿器科 家後理枝

3. 「筋ジストロフィーと発達障害のダブルハンディを抱える息子とともに」

筋ジストロフィーの子どもを抱える家族会 松木生子

～指定発言～

聖路加国際メディカルセンター聖路加国際病院

小児総合医療センター 医長 / こども医療支援室 室長 小澤美和

代表世話人 閉会の辞 17：50～17：55

（17）近畿児童青年精神保健懇話会

事務局：関西医科大学精神科

住 所：〒570-8506

大阪府守口市文園町10-15

Tel : 06-6993-9729 Fax : 06-6995-2669

e-mail : knkjidou@takii.kmu.ac.jp

代表者：〈会長〉長尾圭造

会員数：500名

【平成26年度活動状況】

第51回近畿児童青年精神保健懇話会

日 時：平成26年3月8日

会 場：関西医科大学附属滝井病院 6階臨床講堂

メインテーマ：「児童福祉施設の現状と課題」

第1部

【教育講演1】

司会：長尾圭造先生（長尾こころのクリニック）

飯田順三先生（奈良県立医科大学医学部 看護学科人間発達学）

「少年鑑別所の役割と今後の課題」

講師：定本ゆきこ（京都少年鑑別所 医務課 医師）

「児童自立支援施設とは—非行少年処遇のもう一つの形」

講師：富田 拓先生（国立きぬ川学院）

第2部

【教育講演2】

司会：奥野正景先生（三国丘病院 三国丘こころのクリニック）

宮脇 大先生（大阪市立大学大学院医学研究科 神経精神医学）

「児童養護施設の子どもたち」

講師：田中 究先生（神戸大学）

「児童養護施設における被虐待児への支援」

講師：下笠幸信先生（東光学園）

【総合討論】

司会：長尾圭造先生（長尾こころのクリニック）

奥野正景先生（三国丘病院 三国丘こころのクリニック）

第52回近畿児童青年精神保健懇話会

日時：平成26年8月23日

会場：関西医科大学附属滝井病院6階臨床講堂

メインテーマ：「子どもの困った症状—コミュニケーション編—」

第1部

司会：水田一郎先生（大阪大学保健センター 学生相談室）

宮脇 大先生（大阪市立大学大学院医学研究科 神経精神医学）

【教育講演1】

かん黙

「選択性緘黙の臨床的意義」

講師：小野善郎先生（和歌山県精神保健福祉センター）

「選択性緘黙—背景病理とその対応法」

講師：長尾 圭造先生（長尾こころのクリニック）

【教育講演2】

吃音

「吃音の言語臨床」

講師：久保田功（近畿大学医学部附属病院リハビリテーション部）

「吃音の原因論」

講師：長尾圭造先生（長尾こころのクリニック）

第2部

司会：奥野正景先生（三国丘病院 三国丘こころのクリニック）

稲垣貴彦先生（滋賀医科大学 地域精神医療学講座）

【教育講演3】

虚言

「虚言症の病理」

講師：飯田順三先生（奈良県立医科大学医学部 看護学科人間発達学）

【総合討論】

(18) 北海道児童青年精神保健学会

(19) 国立精神・神経センター 精神保健研究所

（発達障害支援のための医学課程研修）

事務局：国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的障害研究部

住所：〒187-8553

東京都小平市小川東町4-1-1

Tel : 042-346-2157 Fax : 042-346-2158

e-mail : dhp09@ncnp.go.jp

課程主任：稲垣真澄（日本児童青年精神医学会 会員）

副主任：太田英伸，北 洋輔

会員数：60名

【平成26年度活動状況】

本研修課程は、発達障害の積極的な支援につながる知識や技能の獲得をめざして、発達障害

に関心のある医師とくに指導について責任的立場にある精神科医師、小児科医師を対象とする。

内容は、発達障害者支援法の理解、神経発達症群の中で自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症、発達性協調運動症の医学的診断と治療に関わる講義を行い、理解度の確認をしている。

平成26年度は平成26年7月と27年1月の2回に分けて開催した。テーマは、支援施策、治療支援の考え方、地域における支援の取り組み（発達障害者支援専門員）、青年期発達障害の支援、学習障害の診断治療、成人発達障害の薬物治療、クリニックでの育児支援、ADHD児の診方、サマートリートメントプログラムの歩み、チック・トゥレット症候群の診断と支援、就労支援、自閉スペクトラム症の感覚過敏の特徴、不登校の背景と対応であり、それらが精神科や小児科の専門家ならびに教育学者などから構成される講師群によって紹介され、聴講生からの熱心な質問がみられた。

(20) 日本司法精神医学会

事務局〈入退会・年会費・住所変更等担当〉:

〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-12

新宿ラムダックスビル9階

株式会社春恒社 学会事務部内

Tel : 03-5291-6231 Fax : 03-5291-2176

e-mail : jsfmh@shunkosha.com

学会本部〈上記以外の業務担当〉:

〒260-8670 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学社会精神保健教育研究センター法システム研究部門内

Tel/FAX : 043-226-2538

e-mail : jsfmh2005@yahoo.co.jp

URL : <http://www.jsfmh.org/index.html>

代表者: 理事長 中島豊爾

事務局長: 五十嵐禎人

会員数: 752名

【平成26年度活動状況】

第10回大会は2014年5月16～17日に国立病院機構琉球病院村上優理事を会長として、「医療

観察法成立後10年—司法精神医学は変わりえたか」を基本テーマに、沖縄県男女共同参画センター「ているる」で開催された。講演は、会長講演「医療観察法の10年—改革の糸口」、特別講演「日本司法精神医学会に期待するもの」、シンポジウム関連講演「リスクアセスメントと共通評価項目の現在と未来」の3つであった。シンポジウムは「次世代の医療観察法—評価と改革」、「司法精神医学教育の現状と展望」、「医療観察法医療が一般精神科医療に及ぼした効果」の3つが開催された。今回の大会は、施行後10年を迎える医療観察法による医療全体を総括する内容であった。一般演題は58題で、精神鑑定や医療観察法における処遇などを中心に幅広い分野の報告がなされ、参加者は348名であった。また、「鈴木裕樹研究基金」助成事業の第7回受賞者である西倉秀哉会員（大阪府立精神医療センター）から研究成果の報告がなされ、第8回受賞者である野村照幸会員（国立病院機構さいがた医療センター）が総会で表彰された。

研修・教育企画委員会主催で開催される第6回「刑事精神鑑定ワークショップ」は、第10回大会終了後の5月17日に事例検討が、12月21日、22日に講義が開催された。また、学会認定精神鑑定医制度の第1回試験が実施され、22名が合格した。

第11回大会は、2015年6月19～20日に国立病院機構東尾張病院舟橋龍秀監事を会長として、愛知県産業労働センター「ウインクあいち」で開催される予定である。

(21) 千葉児童思春期精神医学研究会

事務局: 独立研究法人国立国際医療研究センター 国府台病院児童精神科

住 所: 〒272-8516

千葉県市川市国府台1-7-1

Tel : 047-372-3501 Fax : 047-318-4611

e-mail : djidou@hospnk.ncgm.go.jp

代表者: 渡部京太

世話人: 青木 勉, 安藤咲穂, 井山綾子, 坂本忠, 佐藤真理, 篠田直之, 中里道子,

森山直人, 松野 真, 渡部京太

事務局長：宇佐美政英

会員数：150名

【平成26年度活動状況】

平成27年1月10日, 総合病院国保旭中央病院しおさいホールにて, 第22回千葉児童思春期精神医学研究会を行った。幹事施設は, 総合病院国保旭中央病院であり, 研究会参加者は116名であった。

第一部の一般演題は, 以下の7演題であった。

1. 「不登校の改善に資する認知行動療法に基づく保護者支援」
南谷則子・松本有貴（千葉大学子どものこころの発達研究センター）
2. 「器質性情動易変性障害女兒の一例～家庭環境・親子関係への理解とともに医療者が見抜くべきこと～」
小暮正信・田邊恭子・内田亜由美・古関麻衣子・高橋純平・小松英樹・佐々木剛・伊豫雅臣（千葉大学病院子どものこころ診療部）
3. 「施設入所中の姉妹の引き取りに向けた旅路～サイズ・オブ・セイフティアプローチの視点から～」
福永彩乃・石牛恵理子（千葉県中央児童相談所）
4. 「こども病院精神科の院内外における小児科医との連携の試み」
安藤咲穂・敦賀壮太・井原祐子・横田瑛子（千葉県こども病院）
5. 「低体重を主訴に入院加療中の中学生男児の一例」
佐藤政子・渡部京太・宇佐美政英・岩重喜貴・牛島洋景・田中徹哉（国立国際医療研究センター国府台病院）
6. 「ベースに発達障害のある強迫性障害の男児に対し, 行動療法を行った一例」
山崎史暁・篠田直之・小池友紀・中嶋敦子（千葉市立青葉病院）
7. 「アスペルガー障害を背景にした強迫性障害患者の治療例について」

磯野友厚（国保旭中央病院）

第二部は, 成田心理療法研究室, 成田善弘先生による, 「思春期の強迫症状一見立てと対応」と題した講演が行われた。積極的な質疑応答が交わされ, 研究会は盛会のうちに終了した。

(22) 東京子どものメンタルヘルス研究会

事務局：日本医科大学精神医学教室内

住 所：〒113-8603

東京都文京区千駄木1-1-5

Tel : 03-3822-2131

URL : <http://tcma.ws/>

代表世話人：市川宏伸

世話人：星加明德, 奥山真紀子, 内山登紀夫, 齊藤万比古, 金生由紀子, 横山富士男, 小野和哉, 朝倉 新, 端詰勝敬, 中村道子, 大下隆司, 川崎葉子, 石崎朝世, 米山 明, 成重竜一郎

会員数：70名

【平成26年度活動状況】

平成26年度は平成26年7月14日に第19回研究会, 平成27年2月18日に第20回研究会をいずれも東京ガーデンパレスにおいて開催した。第19回研究会は「ネット時代の子供・ネット時代の教育—アメリカの現場では今」（演者：ニューヨーク日本人教育審議会教育文化交流センター教育相談室バーズ亀山静子先生）, 「子どものうつ病とインターネット」（演者：日本医科大学精神医学教室助教 成重竜一郎先生）, 「子どもとインターネット～ネット依存・ネットいじめ～」(演者：中部大学現代教育学部児童教育学科教授 三島浩路先生) の3演題の講演があり, 35人が参加した。第20回研究会は「DSMの改訂と発達障害」（演者：北海道大学医学部児童思春期精神医学講座特任教授 齊藤卓弥先生）, 「発達障害の医療～薬物療法を中心に～」(演者：公益社団法人発達協会王子クリニック院長 石崎朝世先生) の2演題の講演があり, 67人が参加した。

(23) 愛知児童青年精神医学会

事務局：名古屋大学心の発達支援研究実践センター

住 所：〒464-8601

名古屋市千種区不老町

Tel : 052-789-2611 Fax : 052-747-6522

e-mail : ascap-office@umin.ac.jp

URL : <http://ascap.umin.jp/ASCAP/index.html>

代表者：(理事長) 本城秀次

事務局長：野邑健二

会員数：100名

【平成26年度活動状況】

第6回学術総会

平成27年3月15日 名古屋市立大学大学院医学研究科医学部研究棟11階講義室 A

- 一般口演5題
- 大会長講演「親の養育ストレスを考える 発達障害から不登校まで」
名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野 山田敦朗
- 特別講演「子ども臨床における育ち支援」
三重県立小児診療センターあすなる学園 西田寿美
- 症例検討
症例提供者：名古屋市中央児童相談所 松浦泰子
アドバイザー：三重県立小児診療センターあすなる学園 西田寿美

(24) 九州児童青年精神医学懇話会

事務局：肥前精神医療センター

事務局住所：〒842-0192

佐賀県神埼郡吉野ヶ里町三津160

Tel : 0952-52-3231 Fax : 0952-53-2864

e-mail : monubbai@gmail.com

(備考：事務局は九州大学病院と肥前精神医療センターで1年毎に持ち回りで担当)

代表者：会長 小林隆児 (西南学院大学)

事務局長：宮下 聡 (肥前精神医療センター)

会員数：63名

【平成26年度活動状況】

①定例総会 (症例検討含む)

日 時：平成26年4月5日 (土) 15時～18時

会 場：福岡市博多区 リファレンス 駅東ビル 会議室

症 例：「自閉症と統合失調症との鑑別に苦慮し、クロザピンが著効した小児期発症統合失調症の2例」

発表者：宮下 聡 (肥前精神医療センター)

総 会：平成25年度の活動報告及び会計監査、新会長選出、平成26年度事務局確認、平成26年度の活動計画 (開催回数、内容など)

②定例会 (演題発表・症例検討)

日 時：平成26年9月6日 (土) 15時～18時

会 場：西南学院大学 西南コミュニケーションセンター

演 題：「児童思春期における精神病症状 外来統計からの検討 発達のアンバランスと多様な精神症状を示す子どもたち」

演 者：香月大輔先生 山下 洋先生 (九州大学病院 子どものこころの診療部)

症 例：「強い不穏と精神病様の訴えから入院治療となった女児の治療経過」

発表者：吉永美央先生 (九州大学病院 精神科神経科)

③定例会 (演題発表)

日 時：平成26年12月6日 (土) 17時～19時

場 所：なかにわメンタルクリニック

演 題：「発達障がいのある人たちへの福祉サービスについて—福祉の基礎—」

演 者：富永祐一先生 (福岡市早良区知的障がい者支援センター)

(25) 児童精神薬物治療研究会

事務局：東京都立小児総合医療センター

住 所：〒183-8561

東京都府中市武蔵台2-8-29

Tel : 042-300-5111 Fax : 042-312-8147

代表者：〈会長〉市川宏伸

世話人：市川宏伸他計15名（会則に記載）

事務局長：市川宏伸

会員数：174名（研究会案内先）

【平成26年度活動状況】

1. 世話人会：①4月2日，②10月19日に開催し，研究会本会の内容を検討した。

2. 研究会：

第9回児童精神薬物治療研究会

日時：10月19日（日）9：55～13：10

場所：アステラス製薬株式会社 本社4階ホール

東京都中央区日本橋本町2-5-1

会費：1,000円（会員参加者48名より徴収48,000円）

当番幹事：内山登紀夫先生（よこはま発達クリニック院長）

テーマ：児童の精神病様症状（Psychosis like symptoms）の診断と治療

開会挨拶：内山登紀夫先生（よこはま発達クリニック院長）

【シンポジウム】

座長：内山登紀夫先生（よこはま発達クリニック院長）

石崎朝世先生（公益社団法人発達協会王子クリニック院長）

Session 1

演題：児童精神科領域における ARMS（精神病発症危険状態：At Risk Mental State）について

演者：新井卓先生（神奈川県立こども医療センター 児童思春期精神科 部長）

Session 2

演題：摂食障害と精神病様症状

演者：小野和哉先生（東京慈恵会医科大学精神医学講座 准教授）

～ 休憩 ～

Session 3

演題：小児てんかんと精神病様症状

演者：中川栄二先生（国立精神・神経医療研

究センター病院 外来部長，小児神経科 医長）

Session 4

演題：発達障害と精神病様症状

演者：広沢郁子先生（メンタル神田クリニック 院長）

【結果】

参加者：会員48名

会計：会計報告は会計監事の奥山眞紀子先生により承認された。

(26) 日本 ADHD 学会

(27) 日本線維筋痛症学会

事務局：日本線維筋痛症学会 事務局

住所：〒160-8402

東京都新宿区新宿6-1-1

Tel : 03-3580-8531 Fax : 03-3580-8533

e-mail : jcfi.office@jcfi.jp

URL : <http://jcfi.jp/>

代表者：理事長 西岡久寿樹

事務局長：中村郁朗

会員数：278名

【平成26年度活動状況】

HP 運営，診療ネットワーク運営，学術集会開催，教育研修会開催，ニュースレター発行，市民公開講座開催など

(28) 神奈川児童青年精神医学研究会

事務局：神奈川県立こども医療センター 児童思春期精神科

住所：〒232-8555

神奈川県横浜市南区六ッ川2-138-4

Tel : 045-711-2351（代表）

e-mail : kokoro-tm@kcmc.jp

代表者：新井卓（神奈川県立こども医療センター 児童思春期精神科）

世話人：内山登紀夫，大滝紀宏，清水康夫，清家洋二，金井剛，高木一江，渥美義賢，生地新，広瀬宏之，大屋彰利，

高橋雄一, 井上勝夫, 飯田美紀, 三上克央, 猪子香代, 中山 浩, 原 郁子, 西本佳世子

事務局長：南 達哉（神奈川県立こども医療センター 児童思春期精神科）

会員数：140名

【平成26年度活動状況報告】

本研究会は年2回開催され、若手医師が症例呈示する症例検討と中堅・ベテラン医師によるショートレクチャーから成り立っている。会員は神奈川県内に勤務または在住する児童精神科、精神科、小児科の医師で、所属機関や出身大学を問わない組織横断的な研究会である。一症例を2時間かけて掘り下げる症例検討が特徴で、若手医師の登竜門となっている。平成26年度は第62回研究会を7月12日に、第63回研究会を10月25日とともに横浜で開催した。

第62回研究会では症例検討『外傷体験後に解離性障害を呈した女子例の成長—「8年間」の後の8年間、25歳までの経過』（演者：神奈川県立精神医療センター芹香病院精神科 和田直樹医師）、ショートレクチャー「こども医療センターこころの診療病棟における入院治療—12年の経験を通して考えること—」（演者：神奈川県立こども医療センター児童思春期精神科 庄 紀子医師）を行い、54名の医師が参加した。

第63回研究会では症例検討『過量服薬による自殺企図で救命救急センターに搬送となった13歳女児』（演者：東海大学医学部 専門診療学系精神科学 木本幸佑医師）、ショートレクチャー『発達障害の診療で留意していること』（演者：社会福祉法人青い鳥・横須賀市療育相談センター 広瀬宏之医師）を行い、46名の医師が参加した。

(29) 東北児童青年精神医学会

事務局：山形県立こころの医療センター内

住 所：〒997-0019

山形県鶴岡市茅原草見鶴51-1

Tel : 0235-64-8100 Fax : 0235-64-8822

e-mail : pingu@prefectural-hp.tsuruoka.ya-

magata.jp（こころの医療センター医
局秘書）

代表者：〈会長〉灘岡壽英

世話人（評議員）：

〈青森県〉栗林理人, 斉藤まなぶ

〈秋田県〉水俣健一, 渡部泰弘

〈岩手県〉加藤 幹, 村上公敏

〈山形県〉神田秀人, 簡野宗明, 井上勝夫

〈宮城県〉本多奈美, 林 みづ穂

〈福島県〉星野仁彦, 本田教一

（監事）：山本佳子, 加藤 幹

事務局長：神田秀人

会員数：148名（H27. 6月現在）

【平成26年度活動状況】

- 平成26年6月22日に第16回東北児童青年精神医学会総会をいわて県民情報交流センターを会場に開催した。大会長は、岩手医科大学神経精神科学講座教授、酒井明夫。

プログラムは以下の通り。

〈一般演題〉

1. 高機能自閉症スペクトラム障害の成人例が示す生活障害に対する支援の在り方について（川村雅之, 他）
2. 成人発達障害者への心理教育グループの報告（高梨美智江, 他）
3. 大人になって合併症を示して来院した注意欠陥・多動性障害（ADHD）者への治療的アプローチの試み（第7報）—メチルフェニデートとアトモキセチンの比較検討—（星野仁彦, 他）
4. 5歳児発達検診における結果報告（途中経過）（斉藤まなぶ, 他）
5. 6歳になった極低出生体重児のWISC-III結果と就学前の支援について（榎本雄志, 他）
6. 心因性紫斑病（自家赤血球感作性紫斑病）の1例（小林奈津子, 他）
7. 原発時事故から3年—その後の子供たち—（谷地ミヨ子）

〈特別講演〉

「東日本大震災におけるこどもの心のケア—

これまで、これから—

渡辺由香（東京都立小児総合医療センター児童・思春期精神科）

山家健仁（岩手医科大学神経精神科学講座）

- 総会前日の6月21日に評議員会を開催した。
- 平成25年度の評議員会において、岩手、宮城、福島各県の震災後のこどもの心のケアの状況と各県の取り組みについて調査をし、その結果をニュースレターとして会員に配布するという提案が出され、翌日の総会で了承された。その後、各県の評議員を中心に調査が行われ、その結果が東北児童青年精神医学会のニュースレターとして、平成26年5月に発行され会員に配布された。その内容はそのまま日本児童青年精神医学会の機関紙「児童青年精神医学とその近接領域」の第55巻、第3号に掲載された。
- 第15回東北児童青年精神医学会で発表された一般演題をもとに、東北児童青年精神医学会機関紙が発行された。

（文責） 灘岡壽英

(30) 京都児童精神医学研究会

(31) 子ども虐待防止学会

事務局住所：〒106-8580

東京都港区南麻布5-6-8

Tel/Fax：03-3440-2581

e-mail：info@jaspcan.org

URL：http://www.jaspcan.org/

代表者：理事長 小林美智子

会員数：約2,800名（平成27年5月現在）

【平成26年度活動状況】

1. 学術集会

平成26年9月14～17日のISPCAN（国際子ども虐待防止学会）会議との合同で「子ども虐待防止世界会議 名古屋 2014」を、愛知県名古屋市の名古屋国際会議場で開催。開会式レセプションには、秋篠宮妃殿下紀子様、同内親王佳子様が出席された。参加者数は2,437名（日本

人参加者数2,027名、海外から410名）参加国数は63か国の国や地域

2. 学術雑誌「子どもの虐待とネグレクト」の発行

第16巻1号：特集「不適切な養育による発育不良—見逃しの防止と地域での支援—」

2号：平成25年12月に開催した第19回学術集会「信州大会」を特集

3号：特集「司法関与と虐待」

3. 会員向けのニューズレター発行

第36号（5月発行）「明日ママがいない顛末記」「信州大会印象記」など

第37号（8月発行）「子ども虐待防止世界会議 名古屋 2014」のプログラム情報など

4. その他の活動

1) 平成26年1月日本テレビ系列で放映された「明日、ママがいない」に対して、抗議・改善措置を緊急要望書にまとめ、日本テレビ放送網株式会社申し入れするとともに、5月25日シンポジウム「メディアと虐待—ドラマ『明日ママがいない』がなげかけたもの」を、日本子ども家庭総合研究所にて開催。その模様は学術雑誌16巻2号、3号に掲載。

2) 「施設や里親家庭で暮らしている若者のための入学支援金」事業としては、3名の候補者に給付。